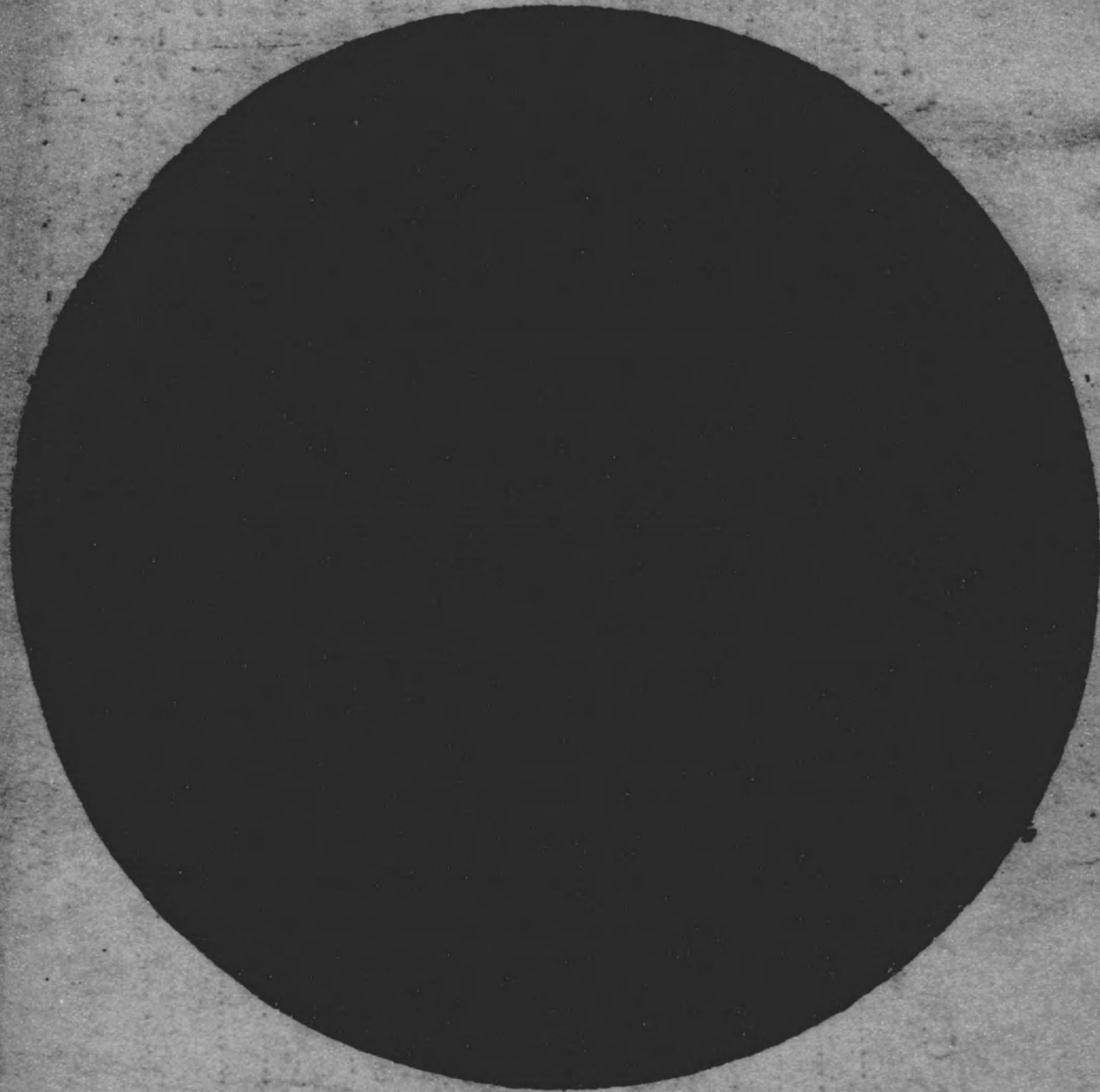


74

念記年六三九一望行

特255

113



輯四第

社動運神精本日



1

0002333-000

特255-113

非常時の智識

近藤源吉・著

日本精神運動社

第4輯

昭和11

AAC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第67条の規定に基づき、平成12年3月2
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

74

特255

念記年六三九一望徠

113

2

P



非常時の智識

輯四第

社動運神精本日

3

「非常時の智識」重要目次

特255
113

- 待望一九三六年を大目標に……………松井將軍の講演より……………(一)
- スターリン獨裁時代の軍備大擴張化……………
- 國防第一精神に邁進せよ……………
- 見よ五拾億の財貨を投ぜるトチカ堡壘と浦鹽要塞……………
- 待望一九三六年の赤軍は百七十億の大軍備豫算擴張……………平松陸軍中將談……………(六)
- 蘇聯邦は一九三六年目標に軍需工業擴大化……………
- 第二次五ヶ年計畫の交通網即ち鐵道の改善擴充全く成る……………原海軍少將談……………(九)
- 共産黨ソヴェート政府の傍若無人言論壓迫と自由拘束……………
- ソヴェート赤軍の名物元帥五人男……………陸軍省新聞班拔……………(一三)
- ソヴェート赤軍が經濟的強味は國家經營……………酒井海軍大佐談……………(一七)
- 國民の奴隸的使役は絶對服従主義の威壓から……………
- 赤大陸軍は單に國內に止まらず世界到る所に革命擁護を大目標……………
- ソヴェート國家を擧げて兵營化、國民總動員で軍人化……………マアーキユリー新聞抜……………(二七)
- 米國は國際的に傍若無人……………
- 米國は嘗て米佛條約の裏切者であつた……………
- 米國がキューバ島に對する政策を反省せよ……………
- 米國は一滴の血も流さずパナマ運河を占領物にした……………
- 更に米國は陰謀政策でカリフォルニア州をも米國土化する……………
- 歐洲戰亂では救世主の如く呼びかけて國際聯盟を骨抜にする……………(硬骨漢ハミルト博士談)……………(三一)

待望一九三六年を大目標に
スターリン獨裁時代の軍備大擴張化

松井大將の講演より

待望一九三六年の危機に直面してロンドン軍備縮小會議は軍備擴張と化した英米は建艦競走となり伊太利はエチオピアを擧滅して併合を宣言したがイデーデン英外相はエチオピアの獨立を承認して伊太利の宣言を拒絶したのである、一面に於て獨逸はラインライドを占領して四十國會議の席上でロカルノ條約を破棄し更にソヴェット赤軍はスターリンの獨裁下に愈々軍備を大擴張化し佛國と軍事的盟約を結び更にパリスタインに於ては猶大人排斥よりの大規模を惹起し歐洲の天地は全く憤火山上に住居せる如く爆發することは既に時間の問題で將に、中、動の構へである、斯る超非常時に直面して松井將軍の講演よりソヴェット赤軍の現状を紹介することは豈徒事ならんやであらう。

國防第一精神に邁進せよ。

近時世界相を眺めると誰しも歐洲の天地には再び世界大戰が突發するであろうと、或は伊英間の國防第一精神に邁進せよ



衝突する可能性あることを或は獨佛の紛争の擴大する所から今にも戦亂化すであろうと殆んど世界人は歐洲方面を注目して居るが……是れは燈臺下暗しの感がある。即ち東洋の非常時を決して忘れてはならぬ。ソヴェット露西亞がスターリンの獨裁權を掌握するや軍備大擴張と成り現に最近に於ける彼等は軍備の優越より鼻高々と漸次、日滿兩軍を侮蔑するに至り其の結果として露滿國境線に於ては敢へて不法行爲と成り逐次露骨堂々と其の件數を増加してソヴェット赤軍の傍若無人なる態度は益々強硬に悪化しつゝあるのである。

試みに昨昭和十年度に於て(滿、蘇、蒙國境)暴行、侵犯事件を調べると東部國境に於て、八八件北部國境に於て二二件、西部國境に於て八件、滿蒙國境に於て一八件、即ち合計一三六件を突發しておるではないか。更に其他に於ても黒瞎子島(ウスリー江、黒龍江とカザケウキツチ水道に挟まれた諸島)等は元來滿洲國領土であるが蘇聯邦は平然として之等の諸島を占領しておるので洵に物擾騒然たる有様であると云はねばならぬ。

ソヴェット彼は以上の外に於ても日、滿、蘇間における國境劃定、漁業問題、樺太石油問題等の未解決の懸案に對しても今尙傍若無人な態度を以て臨み全然誠意を示さないのである。

最近の蘇聯邦は國土防衛の外に全世界に對する赤化闘争の支援を標榜して帝政時代より遙に優る尨大なる軍備を保有するに至つたのである。

而もスターリンが獨裁の得意時代に到つてからは、軍備を中心とする、諸施設の完備に重點を置いて即ち、第二次の五ヶ年計畫等に因つて軍需工業能力の向上を主眼目として劃期的に至れり盡せりて、生産組織の完備を策すると共に尨大なるべき軍備の改善充實を著々と實行しつゝあるのである。故に其の結果現在に於ては蘇聯邦は赤大陸軍と成り従つて其の總軍兵は優に百六十餘萬人となり其の裝備に於ても驚くべき進歩を遂げて特に空軍、機械化部隊、化學戰裝備等に到つては殆んど列強の壘を摩する勢である。

一面に於ては、國民教育は極めて進歩を遂げ其の實績も亦顯著なるものがある。即ち是を各種學校に就て試みるも、彼の世界大戰時代に比べて數倍し殊に國民の國家的訓練には絶大なる努力を拂つておるのみならず。彼等の最も力強くする所は赤軍の殆が生粹の共產黨員を以て編成し最近に至りては軍人の階級制度を復活し統帥系統を確立してゐる。

現に滿洲事變前、赤軍は歩兵四箇師團、騎兵二箇旅團、總軍二、三萬人に、過ぎなかつたが、現在に於ては、躍進的に赤歩十數箇師團、騎兵五箇師團を基礎とする、總軍三十餘萬人に達し且つ之れに加へて飛行機壹千臺、戰車九百臺、装甲自動車五百臺以上が整備してゐるのである。

然かも是れが單に極東方面のみに配置してゐるので即ちチタ、及ダウリヤ等を中心とする後貝加爾地帯、或はブラゴエシチエンスク附近を中心として、或はハバロフスク地帯を中心としては、中

部黒龍江地帯並に、ニコリスク及浦鹽を中心とする南部沿海州地帯等には悉く嚴かに軍備が配置されておるのみならず、既に外蒙には自國の赤軍を侵入せしめて最近に到りては、益々此の地に軍兵を増加しつゝあるのである。

特に注目すべきは、浦鹽に本據を構へてイザと言へば多量の爆彈を搭載して數時間にして我が國中樞の都市を襲ひ更に其の根據地浦鹽まで、歸還し得る超重爆撃機が約、百機餘り常設せられてゐることは、決して我が皇國民として忘却してはならぬ。國防第一精神で邁進せよ。

(2) 見よ五十億の財貨を投ぜるトチカ堡壘と浦鹽要塞

滿蘇國境の要線に於ては滿洲事變を動機として去る。昭和七年以來軍事費十六億留を投じて所謂トチカと稱する堅固なる小型堡壘を數十米乃至數百米の間隔に然かも、二重三重に配置して、其數は無慮數千と推定せられる程に最新式の營陣地帯を築き上げたのであるが、此等は要するに軍事上より觀れば、單に防衛的のみに使用するのではなく、戰略戰術的には、大に攻撃の本據地として、多大の眞價値を有するものであらう。

更に亦驚くべきは海正面に對しては、三十億餘留を投じて浦鹽要塞を著々と増備してゐる、即ち港内には五十餘隻の潜水艦の外に、多數の艦艇が碇泊して、非常の時は大陸にある我が皇軍の後方

を遮断して軍需品の輸送を断絶せしめようと企圖しつゝあるのである。

之に對して我が皇軍の在滿兵力は、其數分の一にも過ぎず従つて飛行機、戰車等に至つては、全然比較にならぬ現況である。

然るに、蘇聯邦は、尙我が滿洲軍に、脅威を感じるものなりと稱して、殊更に本年度より、軍事豫算を倍加して國防の充實に努めると同時に、赤軍の大増強を企圖してゐる所以である。

即ち蘇聯邦は我が陸軍の全兵力に匹敵する大軍を滿蘇國境に配備し、更に西部シベリア及び歐蘇方面に、我が皇軍に數倍する、大軍と三千餘百機の空軍とを、控へて尙且つ増加せんとするを思へば、彼の口實の全く、理由なきを知り得ると共に、其の意圖の奈邊に在るかを想像されるであらう。

嘗て昨年十一月十三日、モスコイ都市に於ける、第一回スタハノフ大會の席上に於て國防大臣ウオロシロフが

「今我赤軍は其の組織の堅實なるに於て或は又凡有る兵器の多數なるに於て前古未嘗有の強大さを示現せりと豪語したのである。即ち彼はソヴェット聯邦民の信頼を赤陸軍一身に集めて他の諸各國軍をして一指だに觸るゝ能はさらしめるに到つたのである。

(3) 待望の一九三六年の赤軍は百七拾億の大軍備豫算擴張

(平松陸軍中將の所論より)

由來蘇聯邦のポリシエーヴキキーは運動最終の勝利を確信してゐるが今其の實力は往年に比して實に十數倍以上に達し何れの國と戦つても大勝利を得ると云ふ確信を得るに到つたと、赤軍某司令官は自ら豪語して居るのである。

然し彼れが斯く豪語する反面に於て又常に西に獨逸を恐れ、東に皇國日本を恐れておるのである兩國の軍備擴張と更に兩國が軍事的盟約を見通してはならぬと敵對視して居る事實を知らねばならぬ。

即ち本年一月十日第二回、中央執行委員會の席上に於て首相モロトフが日獨軍事同盟の締結(註事實無根の捏造)である、並に獨逸と波蘭との接近に關する事實は既にあり得べきことであつて、日本及獨逸が曩に國際聯盟を脱退したのは其の一切の束縛を逸れて、自個の積極的政策を遂行せんが爲めなることは明らかであるが、此の如き極東の情勢、此の如き西方國境の關係は蘇聯邦をして必要なる國防力を整備することを余儀なくせしむるもので、以上本年度に於ては、著しく國防費を増大するの必要に遭遇せるは亦已む得ざる次第であると力説してゐるのである。

故に赤陸軍次官トハチエフスキーは次の如く述べてゐる。

「今哉我が蘇聯邦は日、獨、兩國に對し一萬軒を隔てる東西兩境正面に於て全く同時に且つ、各獨立して戦ふる準備を備へねならぬ。昨年迄は、民兵師團の數七四%に對し正規師團は僅かに二六%に過ぎなかつたが、本年からは、右と反對に民兵師團は二三%に對し、正規師團は七七%までに改編し正規部隊の平時定員を殆んど戦時定員と同一の近きまでに増加した」云々と發表してゐる。更に本年一月十六日の同會會議席上に、蘇聯邦大藏大臣グリニコは勿驚左の如く發表したのである。

「昨年度の國防豫算は六十五億留(實施八十二億留)であつたが本年は百四十八億留(ゲ、ベ、ヴ豫算實施すれば)優に百七十億留に増大したのである、而してグリニコ藏相は是れは祖國安全の爲に國防強化に築く保險金である」と

眞劍味で述べてゐるに徴しても最近の消息は戦争準備なるを窺ひ知るべきであらう。

(4) 蘇聯邦は一九三六年を目標に軍需工業擴大化

若し夫れ非常爆發して大戰亂を來せば彼は之れを密接なる關係を有する軍需工業、資源、運輸、交通等に關して彼國の説明を加へて見ることも強ち徒事ではあるまい。

況んや我が皇國日本としては「國民皆兵の精神」から之れを他山の火災視することは出来ないものである。

即ち蘇聯邦に於ける軍需工業は第一次第二次の産業五箇年計畫の主體をなすものであることは一九二八年五月ウオロシロフ將軍が共產黨大會の席上にて言へる如く「五箇年計畫は豫想敵國の聯合勢力に對して勝利の獲得に必要缺くべからざる國防組織の重點より發せねばならぬ」と力説しておる。

愈々一九三三年スターリンが獨裁權を以て其の共產黨總會の席上に於て五箇年計畫の課題は外部より軍事干涉や攻撃の凡有る企圖を斷然乎として排撃する可能性を與ふる國防能力を最大限度に高める爲には一切の技術的、經濟的、前提條件を作り出すに在つたのだと喝破しておる。

故に今哉是等の計畫は準次完成を見るに到つたのである。即ち先づ其の第一の完成はドンバス地方の工業地帯であつて彼の大規模なるウラル・カヅネツの重工業が建設せられた。

東方に於ては、ブレイヤ河の所謂ブレイヤ建設である。此れは鐵工業を中心とする工業地帯で、鐵五億噸、石炭千四百億噸を埋藏せりと謂はれておる。

更にアンガラ河畔のアンガラ發電所の建設である。是れは河水力電氣を應用し其の發電能力は全蘇聯邦の四六%に及んでおる、其の内容を説明すると、バイカル發電所の五十二萬キロワット、バ

ドン發電所の百七十七萬キロワット、其他に於ても鐵七億七千萬噸餘、石炭二千五百億噸餘を埋藏する大工業地帯である。

更にベトロフスキーの建設、ウガワニの建設等の大工業等が將に實現せんとしておるのである。此の外最近にはコムソモリスクに於ては兵器廠、自動車、飛行機等の製造所が完成して各國の専門技師が雇はれて懸命に従事しておるのである。

更に又浦鹽の極東工廠、ニコリスクの兵器製造所、ハバロフスクの軍需工場、イルクーツクの自動車、戦車及飛行機製作所等は既に何れも其の竣工を見るに到れりと喧傳されておるのである。

以上の結果に依る見地より考察するも如何に彼等が軍需工業の能力が益々増進して擴大化せしかを知るべきであらう。

(5) 第二次五ヶ年計畫の交通網、即ち鐵道の改善 擴充全く成る (原海軍少將談)

嘗て原海軍少將は著者に對して是非一度ソヴェットを視察せよ彼の國は無限の豊庫ありと力唱され其の資源に於て極めて廣汎多種に互り重要資源に特に豊富にして其の生産能力の飛躍と共に其の産額は劃期的に増加を齎らし又一部不足の資源に對しては、近時工業技術の發展に伴ひ、代用品の

研究に努力せりと言はれたことがある。

更に將軍は彼國の運輸交通施設の一例を述べて次の如く云へり。西伯利亞鐵道最近の狀況は驚嘆すべきものがある。

「彼の日露戰役後は其の複線化を計り一九一六年歐洲大戰當時はチタ附近迄完成したが、就中大戰末期以降國內は革命内亂に於て約七五%の荒廢に歸したが、蘇聯邦は直に之れが復舊に全力を傾注して、第二次五箇年計畫の重要事項の一として交通及鐵道の改善擴充に努めたのであるが容易に其の實績は伴はなかつた。然るに昨年春スターリンの肱股たるカガノウキツチが交通大臣に拔擢されてから愈々鐵道施設の改善と運輸業績の向上刷新とに全力を傾注して遂に面目を全く一新し西伯利亞鐵道も亦著しく改善せられたのである。従つて其の複線工事も既に今月に到りてはブラゴエシチエンスグの北方ボチカレオまで完成して其の以東も現在盛んに工事を進め殆んど今日では完成するに到り遂に浦鹽まで全通するに到つた、而して其の素質も優良にして我が國に譬へば山陽線に匹敵すると謂はれ、實に日露役當時に比べて十數倍の輸送力を増加したのである。人口稀薄にして荒漠たる原野の西伯利亞に斯る能力ある複線鐵道の施設に鋭意努力したのは其の目的が何邊にあるかは想像に難くはないが而も蘇聯邦は決して此の複線鐵道のみを満足せず更にバム鐵道及西伯利亞鐵道の建設に着手して極東に對する輸送能力を彌か上にも向上せしめんと懸命に努めておるのである。」と云々

(6) 共產黨ソヴェート政府の傍若無人悉く言論壓迫
悉く自由拘束

ソヴェト赤軍の軍備擴張は以上に示したる次第であるが彼等がソヴェット聯邦國內にあつては世界に呼びかけたる如く果して共產黨は、自由平等主義であろうか、即ち彼等は勞働民衆に對ては表面的には言論の自由を保證せしめてゐたが實際的には然にあらざる。所謂新聞、雜誌書籍其他凡て出版印刷等の刊行物には悉く頒布に對して壓迫の命令を下だしておる。

彼等の定めた憲法第五條には其の自由主義を許して居るが實際は言論の自由は絶無だと言つても過言ではない。

其の證據には何れを探がしても國內に中立的新聞が發行されてゐない況んや反對派の新聞雜誌などが發行される筈がない。

現に共產黨内でさへ黨議方針に對する批評は一切之れを嚴禁されてゐるのである。

嘗て革命派の元勳トロツキー一派は先年幹部と議論の大衝突を惹起しておる然も衝突の原因はト

ロツキ一派の正義論が敗けてしまつたのであるから無茶苦茶である。

即ち「トロツキ一派は吾々共産黨は苟くも憲法發布の條令を誓つて是れを何處迄も守らねばならぬ然るに言論の自由を束縛するは憲法第五條に照らして正に違反であるのみならず世界共産黨員に若し是の違反が漏れたなれば共産黨の政權は其の權威を失却するばかりでなく世界列強に嘲笑されるに到るであらう」との

正論であるべき筈のトロツキ一派の意見は一言の下に拒絶された、スターリン一派の幹部は之れに對して

「苟くも共産黨幹部にして黨の方針政策を言論の自由を利用して批評し之れを反對するに到りては正に吾々の反逆者の行意である」とて爾來ソヴェート國家の最高機關たる大會に於ける議員の質問は僅かに五分間に制限されるに到つた、而してスターリンと其一派の政策が最高最善の權威と成り若し之れと反對する者は忽ち反逆者として嚴然と處罰することに定められたのである。

以上は同志黨員にして此の如き不權識不公平であるから況して一般人民の前には言論の自由など許す筈はない。

殊に外國人に對しては一層手嚴しい壓迫がある其一例はモスクワ都市に於て外國通信員等が遂に正義の爲に蘇聯邦の憲法は何等價值なく全く反古同然であると勇敢に罵倒するや片端から之等通信

員を拘束して一切の通信事務に禁止命令を發した。

其後之れは解禁されたが爾來各通信員が各々自國の本社に電報通信する毎に如何なる簡短なる記事と雖も總じて譯文を附けて其のソヴェート政府當局に許可を受けることになつたのである。

斯くして滿蘇聯邦に不利益な一行文でも記されてゐたら、嚴禁處罰を受けるのである。此の如きは封建時代の支那督軍時代にも嘗て例のない啞然たる專横振りと言はねばならぬ。

(7) ソヴェート赤陸軍の名物、元帥五人男

(陸軍省新聞抜)

吾等はプロレタリアの一國である、共産主義の勞働黨である等と豪語し世界人類に向つて自由平等權を主張して共産主義を力唱した彼等は第一次第二次の五ヶ年計畫を將に完了して今日では世界的に見るもブルジョア階級の仲間に加はり従つて階級制度に改革されて諸大臣が現出し終に五人の名物元帥まで現はれる時代と全く變化して來たのであつた。

試に名物元帥五人を紹介すると

□國防總長兼國防大臣ウオロシロフ元帥

彼は生粹の白系露西亞人で其の前身は錠前直しの一職工に過ぎなかつたが風貌は魁偉性格は武骨

ソヴェート赤陸軍の名物、元帥五人男

漢にして聊か野卑であるが頗る明朗性に富んで先づソヴェット聯邦を代表する巨頭中では人氣者であらう、本年確に五十男の盛りである、彼は嘗て革命騒亂の時代は南露及高加索方面で獨立部隊を引率して各地に轉戦し大に功勞者であつたが後ち陸軍參謀長トロツキーと激論して以來幾度か危険に陥り暗殺されかけたことも屢々であつたが其再度にスターリン派に扶けられて危難を逃れたのである、今哉スターリン獨裁の天下である彼が國防大臣たり元帥たりしはスターリン時代に引立てられて國防大臣兼參謀總長と成り元帥となつた好運兒として有名である。

□國防次官兼副參謀長トハチエフスキー元帥

彼は赤陸軍五人元帥の中で一番若くして、而も舊露帝政時代の貴族の出身なりと云ふ異色のある人物でウオロシローフの副參謀格である、嘗て世界大戰には一年志願の少尉として出征し間もなく獨逸軍の捕虜となり其年の三月革命に際して五度も逃走を企て、漸く遁れて革命赤軍に加はりコルチャク軍やデニキン軍と戦ひ又一九二〇年の波瀾對戦には一方の軍司令官として拔軍の勳功あり當時彼は二十八歳の青年にして指揮官として其の材幹を認められ漸次今日の榮冠を握り占めたのである。

□陸軍大臣兼極東軍司令官ブリユツヘル元帥

次にブリユツヘル元帥は元來勞働者の出身で舊帝政時代には一兵卒であつた彼は革命騒亂には風

雲兒として赤軍の建設に盡くしドウトフ・コルチャク・ウラシゲル軍の討伐に當り最初の赤軍の殊勳者であつた、嘗て彼は支那の孫文に招かれて廣東革命軍の教官と成り（ガロン）の匿名を以て大に活躍したものである。

故に一時は支那に於てガロンとポロチンの天下とまで喧傳されたほどの勢力家であつたが其後蔣介石の寢返りとなり反赤軍のクーデターによつて全然支那革命が一大頓挫を來たし終にガロチンも革命の目的を達せずして支那を去ることになり一時は全く失意の男であつたが然し蔣介石麾下の支那軍隊の幹部中には現にガロンの教育を受けた者が少くない。

故に支那革命失敗後本國に於て波亂曲折に試練されながら今日に及んでガロンのブリユツヘル元帥は極東軍司令官として陸相として今尙支那を裏面より革命化せんとなしつゝある、嘗て一九二九年北鐵問題で張學良と争つた時、彼は極東軍を率ひて滿洲軍の一戦で駐屯の張學良軍を一網打盡に懺滅せしめたことは有名な話である。

□陸軍參謀總長エゴロフ元帥

彼は舊露帝政時代の一將校であつた、曾て反革命軍討伐に際して當時の前線政務長官スターリンに隨ひ内亂の艱苦を共に嘗め赤軍中稀に見る戰略家であつた、後ち彼は北京に大使官附武官として駐在したこともある現に赤陸軍參謀總長の要職にある。

□騎兵監參謀長ブチヨヌイ元帥

ブチヨヌイ元帥は名もない一百姓の出身であつたが舊露帝政時代には陸軍騎兵隊に勤務し而も十三年の長きに及び漸く曹長に昇り馨んばしからざる不平兒であつた偶々革命勃發と共に各地に離散してゐた騎兵を糾合して赤軍騎兵第一軍を編成し南露の平原にデニキン軍を討伐し更に各地に轉戦して殊勳を表はし内亂平定後は騎兵監に昇進し現に騎兵監參謀長の要職にあつて一方陸軍大學の一學生として勉勵したことは有名な逸話として傳へられてゐる。

今哉彼等は五人共に新元帥となり赤陸軍の元老として百六十萬の赤大陸軍の指揮官として或は空軍四千機的首腦者として或は共產黨政權の幹部として以上名物男の略歴である。

斯くしてソヴェット聯邦は現在五元帥の下に一等軍大將、二等軍大將と云ふのがあつた、更に亦二等軍大將の下に師團太將等の區別が出来て其の配下には師團中將あり、旅團少將あり、大佐、中佐少佐等準次階級制度に然も此れに伴ふて金星爛然たる威容を保つことになつておるのである。

然し面白いのは此の新元帥閣下が何れも金ピカの盛装をこらしめてゐるのに而も其の上に所謂最高の首位を獨占して大號令を發し世界人が恐怖心をいだいてゐる即ち絶對的獨裁者スターリンは單に赤ひ襟に大型の金星一ツ赤羅紗に山形の袖章と云ふ全く一兵卒の粗服を纏つて共產黨書記長として納まつておるのだから如何にもソヴェット赤軍らしい一面目が窺はれる所以である。

(8) ソヴェート赤軍が經濟的強味は國家經營

(酒井海軍大佐談より)

過去十數年以來のソヴェット露西亞を顧みると殆んど世界人は非常なる疑問の國である、恐ろしい陰謀國である、などと蛇蝎の如く嫌惡し怨嗟の的となつておる所のソヴェット露西亞では世界の惡評など馬の耳に風で知らぬ顔して既に第二の五ヶ年計畫が殆んど完成して其處に偉大なる軍事的大事業が遂行せられたのであるから世界人は頗る驚異の眼を見張つて驚ろき啞然たらしめておると云ふことである。

而も今日に及んでは各國共に此の疑問のソヴェット・ロシアに大に學ぶべきではないかと感嘆するものさへある、現に米國の如きがそれ故に米露提携となつておるのである。

或は佛國の如きもそれで遂に本年春、佛、露、軍事盟約が結ばれたのである。

世界人は先年迄彼はポリシエヴィキの親方で破壊的だ決して國家として交際する國ではないと各國共に相手にしなかつたソヴェット露西亞は今日では世界の何れもが自ら進んでサーヴィスしたり接近したり同盟國として握手するに到つたのであるが

然しながら單に此の如き表面の事實を見て直にソヴェットの政權がロシア國民全般の信頼を受け

てゐるか或は共產革命の成功など、定めるのは畢竟ロシアの本質を知らざる觀察ではあるまいか私は航空本部の原少將閣下と共に彼の地に派遣しては尼港の慘情を眼前に眺めて驚かされたのである實に彼等がポリシエヴィツキは恐るべきものと云はねばならぬ、更に彼等が經濟的に強味がある所には世界穀物の寶庫と云はるだけ農民が七五%を獨占して年々歳々七億留の穀物を外國に輸出しておる所謂ロシア農産物のダンピングは世界人をアツと驚嘆せしめたのである。

元來舊帝政時代からロシアは國民の食料品が成程自足自足で尙餘りがあつたから、海外に輸出したからと別に驚くべきことではないが、今日のロシアは國內に於て、如何に國民が食糧に物質に缺乏しておろうが聊かもおかまいなしで片端から輸出して、唯だ金に換へることのみ吸々と努めておるのである。

之に反して日用必需品が缺乏しても絶對的に輸入しないことに定めておる彼等は、國民の日常生活に満足させては折角の第一、第二の五ヶ年計畫は果せないと資本主義を否定して國營機關のみがその衝に當つておる。

故に石油、石炭、木材、等を初め農産物の天惠國であるが爲に之等を國營化して輸出するのであるから、世界からダンピング呼ばはるのは當然であろう。而も國內では紙幣は幾ヶ程でも濫發して是に對する正貨の準備があるうが、あるまいが更に財政がどうあるうと外國貨幣との相場は少しも

無影響である。

従つて紙幣濫發による他は國內事情の爲に他國の様に物價の騰落や變動がない所以である。

即ちソヴェット聯邦は威壓的に嚴然と生産分配手段を掌握しておるから、變動がないことを知らねばならぬ。

(9) 國民の奴隸的使役は絶對服従主義の威壓から

陸軍省新聞抜

彼等の國民は一體どんな生活状態であろうか、共產自由主義の彼國に於て「パン」の如きものすら切符制度で公定價格で賣却せられておる。而も國民が汗と油の結晶で働いて收穫する。賃金は幾ヶ程であろうか此等の賃金は僅かばかりでチエルウオーネツ貰つても其れで彼等が日常生活の食料品を容易に求めることは出来ないものである。

私は「日本の農業は行詰状態である農業の救済は絶對的である等と喧ましく聞かされておるが、ソヴェイト露西亞の農民ほど憐れむべきものはないと思ふ、彼等は日本の水呑小作の百姓しさに比べて遙に倍する困窮に試練されておる。

ソヴェット彼等農民は殆ど世界人が相像もつかない僅かな賃金で生活を辛うじて過ごしておるの

國民の奴隸的使役は絶對服従主義の威壓から

だから寧ろ物々交換を窃に希望し漸く其の不足を補ふて居ると云ふ可憐な状態である。

殊にソヴェット政府の惨忍極迫な行意として最も國民に怨嗟の的となつておるのは斯如き可憐なる國民より猶且つ遊金を回收せんとする場合は高かい値段で品物を賣り附けるのである。

従つて國民を全く奴隸的の制度に非人道を敢へて行ひつゝある一例を示せば、山林から採木に従事させて居る六十餘萬人の囚人は僅かに一日「パン二斤半」と少量の水を與へる、時々腐つた魚肉のスープを飲ましておるのみで然かも十二時間の勞働を命じ防衛團の監守の下に瞬間の休みもなく使役しておるのである。

嘗て此の慘虐非道が露見して各國より露西亞の木材を輸入することを禁じろと議論が喧ましく起つたのは有名な話である。

更に浦鹽阜頭では大豆、豆粕などの輸出期には、荷役人夫の不足を補ふ爲に強制的に市民の中から小學校の教員やタイピストまで驅り集め出して一袋百四十三斤もある大豆袋を積ませて荒仕事を平氣でやらせるのも有名な話である。

現に専門の支那苦力ですら今時の浦鹽は生地獄であると逃げ出したほどであるから全く奴隸酷使と云はねばならぬ。

私は尼港—浦鹽間で日本の賣春婦の勇敢な死を見て感激したことがある、其れは彼等が此の如き

ロシアの役人に苦しめられて其の身を壓制的に汚かされんとした時、彼等の如き悪魔に身を委すは日本女性の恥辱であると自殺したり海中に身を投じたりした悲戲を思ひ出したが、彼等女性にも日本精神の血が流れて居たかと思へば自然頭が下つた。

又亦脱線したが要するにソヴェット彼等は共產自由主義を世界に呼びかけ而も「勞働者の天下蘇聯邦」なりと豪語する彼の國が以外千萬にも奴隸酷使するのであるから甚だしき矛盾があるではないか、可憐なる國民は自國政府を蛇蝎の如く嫌悪し怨み骨髓に達して居るのである。

即ちソヴェット機關新聞にして見るに見兼ねて其の慘逆非道に對して「勞働力の流動が極めて甚だしい」と公表した事實に見るも明らかである。

(10) 赤大陸軍は單に國內に止まらず世界到る所に

革命擁護を大目標

(獨逸新聞抜)

ソヴェット露西亞は政權擁護と主義斷行の爲には最も忠實なる番犬である彼等は尨大なる赤軍を備へ他方には世界無比の恐るべき探偵制度が控へておる。

共產黨員は此の間に起つて縦横自在に活躍して天下何事か我が意のままに成らざらんやと豪語しておるのである。

而も國民の苦痛や窮乏等は眼中になく苟も共產黨議に反する者は何者にも假藉せず現に大革命の元勳たるトロツキーの如きルイコプの如きも既に共產黨議の違反者として冷酷な制裁を受けたのである。

故に國際國から非難の聲が高まるも全く眼中に置かず共產黨員を要所々々に配置して命令一下、如何なる難事も徹底的に服従さすのである。試みに彼等の發布した憲法によらしめば「其の最權力は普通選舉に因つて成立す、蘇聯邦大會に於て國民の總意を議會に反映せしめ議會政治の本領は遺憾なく發揮せしめる形式になつてゐるが、

實質は然うではない豫算の協議權も立法も其他税制の審議權も何もあつたものではない。

而も二ヶ年に一度武力絶對監視の下に僅に一週間ばかり開かれる全然有名無實のものに過ぎない國政の最高權は全く共產黨政治部が即ちスターリンを中心として十數名の幹部が掌握して之れを決定し各機關に附議して其の實行を彼等が命ずると云ふ仕組になつておる。

従つて其の實行機關は矢張り八割五分迄猶太系の共產黨員にして責任ある地位を悉く獨占して絶對專制政治である。而も其の重要幹部は革命軍唯一の大功勞者のみにしてウオロシロフ元帥はスターリンの配下に最も勢力を有し、之に次ぎ赤陸軍參謀長たるエゴロフ元帥がある。

彼等は常に赤陸軍に對して政治教育を實施して世界の大勢乃至其のソヴェットの關係などを一兵

卒に至るまで徹底的に教へ込んで思想的にも堅固に軍紀も又嚴肅である。

而て赤陸軍を以て共產主義の學校となしておる、故に共產黨の細胞は赤陸軍内には細く刻み込まれて聯隊長、旅團長、師團長、の如きは何れも共產黨の幹部が任命され聊かでも違反者は銃殺されておる。

故にソヴェット赤陸軍に於けるゲーベールウーの存在は泣く子も直ちに止まると云ふ勢ひで上官の命令に背けば銃殺されるので共產黨政治の彈壓主義と倆々相俟つて實に恐怖的であると云はねばならぬ。

(11) ソヴェット國家を擧げて兵營化、國民總動員で軍人化

彼等は常に戦はずして勝たんと所謂世界を共產主義を以て悪化することに努めたが愈其の最後に到つては舊露帝政を一大革命に因つて即ちロマノフ帝國を破壊した如くポリシエーヴィーキの陰謀の奥の手を延ばさんと暗中飛躍しておるのである。

今哉歐洲の一角パリスタイン彼等猶太人の故國では基督教國と殆んど晝夜の如く大混亂を惹起しておるのである。

彼等一族は彼等の神がパリスタインに再臨したのであると、此のパレスタインに集りつゝキリス

ソヴェット國家を擧げて兵營化、國民總動員で軍人化

ト教徒と相反目して再び血を流してゐる。更にアラビヤ叛徒の暴行激化で遂にパレスタインの各地では英軍隊とアラビヤ人との交戦となりつゝあるのである。

ソヴェット赤軍は歐洲の天地が大動亂の巷と化すことを既に觀破してポリシェーヴィキの陰謀を起さんとし又軍事的には佛蘭西と提携して軍事行動にも現はれんと成しつゝある。

顧るにコムニストは宗教は國民精神を麻痺するものなりと恰も阿片中毒の如きものに見解して宗教力を否定し此の難事業に手を延ばして彈壓したことは彼等の主義ばかりではない國民一部より宗教の影に隠れて反政府運動を企てる傾向がないでもない即ち彼等の用意周到なる所より遂に先づ宗教破壊主義に出でたのである。

彼等の陰謀は遂に之れに成功すると更に其の手を延ばして結婚制度の極端なる簡易化のために不自然の拘束から男女を解放し男尊女卑から男女絶対同權を主張し進んで職業の性的區別を認めないことに定め或る女性は炊事場より解放して其の勢力を生産事業に活用し、例へば社會の食堂の設備などにレストランに現はし強いて反感怨嗟を押し貫き諸宗教を壓迫し、舊道德を打破しソヴェット政權の自衛上非常に効果を得たことは世界人をして是又驚異の眼を光からしめたものである。

即ち彼等が政權を掌握したのはボルシェーヴィキ運動に成功した結果である。彼等は階級の打破、私有財産の沒收、家族制度の破壊等の一切の舊道德を否定し最後に宗教まで撲滅してしまつた

舊露帝政下の貴族ニ富豪ニ百姓ニ軍人ニ僧侶等數百萬人が或は銃殺され或は暗殺され或は燒死され此の世ながら生地獄の有様を偲ぶ時實に戰慄せざるを得ないのである。

然しながら此の如く恐るべき行爲も彼等共産黨政府側に言はしむれば虚心平氣で唯だ〳〵年來の所信を貫徹したばかりであると豪語してゐるのである。

更に彼等の政治、經濟、軍事等を極言して曰く我々は言語のみを以て針少棒大に共産主義を力唱するのではない其れは自ら國內に範を示して居るとして、

則ちソヴェット國家を擧げて兵營化して居ることを力唱し更に國民總動員を擧げて軍人化して居ることを豪語して平然たるものである。

太陽の如き慈愛を賜はる我が皇國日本の如き一天萬上の 天皇陛下を拜戴して三千年來の歴史を有する皇國民は鬼ヶ島の如きソヴェット露西亞と比べて洵に天と地との隔てがあるのではないか著者は筆を執りつゝ

何にごとのおはしますかは知らねども

辱じけなさに涙こぼるゝ

次第で皇國日本臣民だることが心より感謝感激するばかりである、餘りの感激に脱線したが彼等の冷骨漢は斯くして第二次五ヶ年計畫も將に完了して居る今日の現状を眺めると益々驚嘆に價する

ソヴェート國家を擧げて兵營化、國民總動員で軍人化

ソヴェート國家を擧げて兵營化、國民總動員で軍人化
ことばかりである。

即ち彼等が國民を威壓的に苦しめ奴隸的に酷使する等は知らざる如く國防飛行化學協會を創立して一面には而かも半強制的に民間飛行機の如きも約六百臺を献納せしめ更に民間飛行學校等も二十四校を建設し、従つて國防協會員の如きも千六百萬人に達し、小學兒童も、女學生も、中學生も國防精神化し或は産業演習を試みたり、或は自動車運轉演習を試みたり、或は飛行機演習を試る等々全然彼等政府の言へる如く國家擧つて兵營化し國民擧つて軍人化して居るのである。

著者は彼等の共產主義は絶對的に排撃すべきであることを主張し力説するが

彼等が國家を擧げて兵營化し彼等國民が更に總動員擧つて軍人化するその偉大なる努力には吾々皇國民として大いに恥すべきではあるまいか

軍人勅諭の精神に「國民皆兵」と仰せられてある、況んや非常時の今日に於ておや、我々は日本精神を蘇かへらして國民皆兵の精神に生きるべきである、即ち國家協つて兵營化し國民協力一致して軍人化する秋であることを力説して擧筆する次第である。(完)

昭和十一年五月二十七日海軍記念日、稿

米國は國際的に傍若無人

米國正義の新聞マアークユリー紙の所論

米國は嘗て米佛條約の裏切者であつた

嘗て世界の物質文明を代表する大米國も其の歴史を顧ると獨立戦争に大勝利を得たからである。何故に勝戦さとなつたのかと言へば、其れは佛蘭西と軍事同盟の後援の賜であつたのである。

而も米佛同盟は米國のフランクリンが佛國巴里へ出かけて禮儀厚く條約を締結したので歴史的に觀るも米國建國以來最初の條約であつた。當時米國が米佛條約には「相互に兩國は相倚り相扶けて若し夫れ假りにも米國が英國と媾和するに際しては、佛國が之れに同意しなければ媾和せまい」と固く條約に禁じてゐる、然るに米國は同盟國を無視して之れを履行せなかつた。

加之全然佛國に知れないように、窃に英國に密使を特派して媾和談判を終了したので佛國は條約を違反したと大いに激怒するに至つた。米國は裏切り者として罵倒された。

偶々後年に及んで、英佛間に戦争を交へた。此の際に於ても、米國は「未だ我が米國自體は獨立して基礎が定まらず況んや兩國の戦禍に捲き込まれることは迷惑千萬であると全然米佛同盟條約を破

米國は嘗て米佛條約の裏切者であつた

約して中立を宣言した。

のみならず米國は米國民に呼びかけて佛國に味方することは個人的にも絶對的に援助することを禁じたので佛國は非常に米國を憤り彼の歐洲大戰前途殆んど百二十餘年開米國の怨恨は解けなかつたのである。

□米國がキューバ島に對する政策を反省せよ

然れば米國がキューバ島に對しては、如何にと云へば「嘗ては米西戰爭の突發に際して我が米國政府は世界に呼びかけてキューバ島は全然併合するの意志はない勿論管理する考へも無し唯々彼國の騒亂を鎮靜する爲である」と誓明書さへ發したではないか

然るに軍港を建設し外交を監守し島の内治に迄干渉して事實上全く米國土化してゐるのである、而も漸く世界の非難攻撃を緩和する爲に所謂制限附きでキューバ島を表面獨立せしめておる所以であるのである。

□米國は一滴の血も流さずパナマ運河を占領物にした

米國がコロンビアに對する如何を紹介せば最初米國政府は米國の海軍力を將來に於て擴大せしめ

るには何うしても、兩大洋即ち大西洋、太平洋を自由に往來する大運河が出現せなくてはならぬとコロンビアに眞面目に同意を求めたのである。其れは言ふまでもなく、コロンビアのパナマ地峽に對する主權を我が米國が條約を締結してゐるからであつた。

處が容易にコロンビアは是れに對して承認しそうにもなかつた。コロンビアの正義漢は團結して反對した。

然るに米國は之れを逆用した即ち彼等を煽動して革命騒動を勃發せしめたのである、窺にスパイを利用して金品酒肴で買収したのである。

當時大統領ルーズベルトは斯る陰謀は素知らぬ顔で我輩はパナマが獨立國たることを何處までも尊重して之れを希望するものである、然しながら我輩の意とする所を若し公然と發表すれば現下のコロンビアの革命騒亂を一層擴大化せしむる恐れがあるので之れを憂慮して此處に故らに聲明することを差し控へる」と豪語した

斯くして間もなく恰も（救世主の）如く、太平洋艦隊をパナマ地峽に急航せしめたのである。當時コロンビアは全く革命騒亂が戦争化して居たので、ウエアタス將軍は千余名の海軍將兵を上陸せしめて鎮靜に努め漸く平定したのである。

其れから約二ヶ月後には外交策がマンマと成功して米國はパナマ共和國を認め而かも運河地帯は

我が米國に對して容易に割讓せしめるに到つたのである。

全るで赤子の手をねじる如く弱い國々に對しては我が米國は一滴の血も流さずして平々凡々にパナマ運河を占領物にすることが出来たのである。

従つて我が米國政府は此の如き陰險手段を決して是れ等のみでは満足せなかつたのである。

□更に米國は陰謀政策でカリフォルニア州をも米國土化する

米國は何れの國も戦争をせずして悉く國土化することに於ては世界人が啞然たらしめておる、即ちカリフォルニア州も亦然りである加州に偶々革命騒動が突發した、此の秋世界人は再び此の革命騒動は例に因つて米國の政策であらうと注目してゐた。

果して世界人の活眼の如く我が米國政府は此の加州革命を絶好のチャンスと考へ一層擴大化することに煽動の火を燃やしたのである、其の證據には、加州に革命勃發するや否や我が米國陸戦隊は直に馳せ参じ間もなく鎮定した。

而も裏面では窃に五百萬弗とかでメキシコ政府と握手して間もなくカリフォルニア州を米國土化してしまつたのである。

□歐洲戦亂では救世主の如く世界に呼びかけ國際聯盟を骨拔にする

嘗て米國は歐洲戦亂前に獨逸と建國以來前後三回に涉つて軍事的條約を締結してゐたのである。而も彼我の間には譬へ宣戰布告しても約十ヶ月の間は義務整理の上から自由に滞在することを相互に於て良解し合つてゐたのみならず絶對的に財産其他は保證せしめる盟約が交はされてゐたのであるが

彼の歐洲大戰亂を惹起したので此の條約は破棄した。當時米國は歐洲大戰亂を絶好のチャンスとして大いに火事泥根性を發揮した、シコタマ黄金の山を築いた、然るに表面には大統領ウイルソンは、獨逸の世界征服主義を打破せよと世界に呼びかけて戦争は破壊であると人類愛を力説し世界平和來を力唱し獨逸に向つては條約違反であると談判して、悠々と歐洲大戰が疲勞して休戦前際に於て米國軍を参加せしめ結局大統領ウイルソンは獨逸の慘狀を眺めながら、百隻に餘る獨逸商船を悉く沒收した、其の上獨逸の財貨をも捲き上げてしまつたのである。

而も大統領ウイルソンは歐洲大戰を休戦に導いたまではよかつたが、國際聯盟を組織して置きながら其の發起人たる責を全うせずして聯盟會に加入せず、即ち最初より國際聯盟なるものを全く骨抜きにしてしまつたのである、故に世界人は米國の不徳漢を罵倒するに到つた、最後に日本對米國

の衝突が記されてゐるが其れは我が皇國民として周知の事實が山ほど澤山にあり今更米國から侮辱の汚名を受けたことは本論では云はぬが花として結論するが

要するに以上は米國の憂國士と云はんか硬骨漢と叫ぶか有名なるハミルトン博士が豫而米國正義新聞と呼ばれるマアキュリー紙に掲げた論説の一節である。

ハミルトンバトラー翁は過去百五十有餘年の歲月を顧れば幾多の條約の……國際的義務の反逆者として我が米國は今日の大發展を來したのである。

遺憾ながら一度として正々堂々と勇ましく血の雨を降らすこともなく、我が米軍を犠牲にしたことも斷ないと言しておる。従つて我が米國民の生死を脅すほどの危機に未だ會て直面したともない

此の意味から考へると隣邦日本帝國は彼の日清戦役と云ひ、或は日露戦役と云ひ、歐洲戰亂に於ける日獨戰爭と云ひ、又今度の滿洲事變と云ひ、何れの戦ひを眺めるも實に正々堂々たるものである。殊に滿洲國建設は所謂日本精神化である。

日本帝國は眞に紳士國である正義の國である、何故に我が米國は進んで滿洲國を是認せないのか米國は過去の罪惡の爲に罪滅しの爲にも滿洲國を世界に先きかけて是認せねばならぬ、聊かも躊躇する時ではない。」とハミルトン博士は

米國政府に或は米國民に呼びかけて力説しておる正義漢である。(マアキュリー紙抜)

資本金壹千萬圓

普通倉庫業、保税倉庫業、保税工場業、税關貨物取扱業、棧橋及船舶碇繋場業、貨物陸揚場業、船貨積卸業、運送業、委託販賣業



本店 東京市日本橋區江戸橋一丁目一番地
神戸支店 神戸市湊東區東川崎町一丁目四六番
地方支店 東京、横濱、大阪、門司

「非常時の智識」

第四輯 (定價十錢)

昭和十一年七月一日印刷
昭和十一年七月五日發行

著者 近藤源吉

神戸市須磨區五位池町三丁目一四〇

發行兼印刷人 近藤正枝

神戸市須磨區五位池町三丁目一四〇

印刷所 眞人社出版部

神戸市須磨區西代通二五ノ二三番地

發行所 日本精神運動社

神戸市須磨區五位池町三丁目一四〇

電話 須磨二八〇番

振替口座大阪二二五三九番

腸カタル
消化不良
消化不
傷鼓腸
常習便秘
乳食
小兒下痢
緑便
に便秘

腸疾患に●●●

ビオフェルミン

ビオフェルミンは腸内・腐敗異常酸
酵を防止し消化を促進しますから、
腸疾患に合理的治療効果を収めるの
みでなく、豫防及び健康増進に利す
るところ著大であります

末粉と劑錠
りあに店薬名知

發賣元 大阪市道修町 株式会社
製造元 神戸市二番町 株式会社
武田長兵衛商店
神戸衛生實驗所